

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01708

研究課題名（和文）インクルーシブな小学校外国語教育カリキュラム・マネジメント及び教員研修の開発

研究課題名（英文）Development of a sustainable curriculum management system and teacher training program for inclusive elementary school foreign language education

研究代表者

松宮 奈賀子（Matsumiya, Nagako）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：70342326

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、インクルーシブ教育の推進が求められる中、特に小学校の外国語教育に焦点を当て、全ての児童の学びを保障するための指導上の留意点を明らかにし、それに基づく教員研修の効果を検証することを目的とした。

教員対象の調査及び学習者対象の調査から明らかになった、英語学習上のつまずきの具体や考えられる要因を元に、そのようなつまずきへの支援ができるための教員研修を実施した。研修は、学習者の情意面への支援、読み書き指導における支援、語彙・文法指導における支援、一斉指導における支援、そして特別支援学級等における指導といった内容で構成され、事後アンケートから参加者の学びの深まりが報告された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の一つは、英語学習におけるつまずきの具体をこれまで以上に詳細に明らかにしたことである。約1,400名の大学生に、小学校・中学校時代の学びを振り返ってもらい、どのような難しさがあったのかを自由記述を含め詳細の検討した。また、国語でのつまずきについても調査し、英語学習におけるつまずきの予測因子となる可能性が示唆された。これにより、国語に困難がある児童へは、外国語学習の際により丁寧な支援をすることでつまずきを緩和できる可能性が考えられる。

また、教員研修からは英語学習のつまずきに関する理解の深まりが見られた。継続的な研修を望む声からも、本研究の成果は社会的ニーズに応じたものと考えられる。

研究成果の概要（英文）： In the context of the need to promote inclusive education, this study focused on foreign language education in primary schools in particular, with the aim of clarifying the points to be considered in teaching to ensure the learning of all children and examining the effectiveness of teacher training based on these points.

Based on the specifics and possible factors of stumbling in learning English that were identified from the surveys of teachers and learners, teacher training was conducted to provide support for such stumbling. The training consisted of support for learners' emotional aspects, support for reading and writing instruction, support for vocabulary and grammar instruction, support for simultaneous instruction, and instruction in special-needs classes, etc. The participants' learning was reported to have deepened based on the post-lecture questionnaire.

研究分野：外国語教育

キーワード：小学校外国語教育 インクルーシブ教育

1. 研究開始当初の背景

国連「障害者の権利に関する条約」の発効を皮切りに、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」や「改正発達障害者支援法」の施行など、近年、我が国の特別支援教育施策は目まぐるしい変化を遂げており、通常の学級においてもインクルーシブ教育システムの推進や合理的配慮の実施などが求められるようになった。事実、新学習指導要領の各教科等の解説においても、学習に困難のある児童生徒に対して実践できる合理的配慮や指導ストラテジーの例が具体的に掲載されるようになった。しかし、これらの配慮事項を、実際の授業場面で具現化する際に「何をしてよいのかよく分からない」といった小学校教員が4割を超えていることが本研究グループの前身が2017年度～2019年度に取り組んだ挑戦的（萌芽）研究の調査結果から明らかになった。

その背景として、教科教育と特別支援教育の研究者が連携し、互いの分野における知見の融合が十分に図られていないことが考えられる。その結果、現場の教員が研修を受ける際にも、特別支援の視点からの研修と教科の指導に関する研修が別個のものとして扱われ、小学校教員の中でも両者の知が融合できていない実態があると考えられる。しかしながら、特別な支援を要する児童数は増加の一途をたどっており、インクルーシブな実践が求められる今日、小学校教員にとって、合理的配慮を視野に入れた各教科の指導ができることは重要であり、喫緊の課題である。本研究では、2020年度から開始学年が小学校3年生に引き下げられ、高学年では教科として読み書きの学習が始まる外国語を取り上げる。その背景として、次の4点の指導に関わる課題があり、特に教員への研修が急務の教科と考えられることが挙げられる。

そもそも母語でない言語を用いて学習・指導しなくてはならないこと

いまだ外国語を指導した経験がない教員が一定数存在すること

教員の指導経験が浅く、余裕を持った配慮が難しいこと

英語は読み書き障害の発生率が高い言語であり、より一層の配慮が必要であること

また、小学校を取り巻く今日の課題として、学習困難への対応に加えて、外国ルーツの子供や帰国子女への指導も重要な課題である。外国語はそれらの児童の文化背景を生かしながら指導を展開できる教科であり、外国籍児童や帰国児童に対するインクルージョンにもつながる実践が可能と考えられることから、他教科に先んじて本研究で取り上げる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、特別なニーズのある児童も含めた全ての児童の確かな学びを保障する、エビデンスに基づく小学校外国語の指導上の留意点を明らかにすること、また、それに基づいてカリキュラム・マネジメントのための教員研修を実施し、その効果を検証することである。

3. 研究の方法

(1) 児童の英語学習におけるつまずきや困難の実態把握

研究開始前（2019年時点）の計画では、児童の英語学習におけるつまずきや困難の実態を把握し、またそれに指導者がどのように対応しているのか、指導者の抱える悩みは何かなどの情報を収集するため、国内外の実践を観察し、分析を行う予定だった。しかし2020年度及び2021年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校の学外者受入れが厳しく制限されたため、上記の計画を実行することができなかった。それに代わって、以下の3つの調査を実施した。

小学校6年生を指導する教師（295名、うち学級担任235名、英語専科教員60名）への質問紙調査

上記質問紙調査の内容をより深く理解し、考察するため10名の小学校教員（学級担任6名、英語専科教員4名）を対象とするインタビュー調査

大学生（1,393名）への「日本語習得過程や国語学習におけるつまずき」と「英語学習におけるつまずき」に関する質問紙調査

(2) 児童の多様なつまずきに対応するカリキュラム及びカリキュラム・マネジメントに関する教員研修

上記(1)の実態把握で収集した情報に加え、小中学校及び特別支援学校教員22名から、英語授業における児童生徒のつまずきの実態を自由記述で収集し、それらの情報をもとに、指導者の「つまずき対応」における困り感をリストアップした。それに基づいて、先行研究の知見や講師の専門性を生かした研修を実施し、その成果を事後アンケートにより調査した。

4. 研究成果

(1) 指導者の立場（学級担任か専科教員か）による児童の英語学習におけるつまずき認知の傾向の違いが明らかになった。

担任、専科に関わらず、児童はまとまった話の概要を捉えることに苦手意識があり、電子黒板やCDなど子どもに合わせて速度や声音を調整することができない固定音声の聞き取りが難しい児

童が多いことや、話すことに対して不安や抵抗感を示す児童が全体の1~2割いると認識されていることが明らかになった。また書くことについては、四線の使用、大文字と小文字の区別、類似した形状の文字の混同、分かち書きができないことなど、多くの課題が挙げられた。

一方、担任と専科による児童のつまずきに関する認知傾向には統計的な有意差はなかったものの、英語の4技能すべての学習項目について、学級担任の方が「困難を覚えている児童が多い」と回答する割合が高かった。専科教員は英語を指導する経験が豊かであることが多く、児童のつまずきを「問題」「課題」ではなく「学習途上においてしばしばあること」と長い目で捉えることが出来ている可能性が考察された。

(2) 指導者の立場(学級担任か専科教員か)による児童の英語学習におけるつまずきに対応することへの自信度の違いが明らかになった。

上記(1)の調査データを用いて探索的因子分析を行った結果、児童のつまずきは4つの因子から構成されることが分かった。リスニングでのつまずき因子、言語操作でのつまずき因子、書字でのつまずき因子、否定的感情喚起因子のうち、~の英語の技能に関わる因子において、専科教員と比べ学級担任の指導への自信度が低いことが明らかになった。この結果から、教員の属性に応じた研修の必要性が示唆された。

(3) 英語学習過程におけるつまずきの具体が明らかになった。

大学生を対象に行ったレトロスペクティブ調査により、以下の点が明らかになった。

小学校時代、中学校時代、現在の英語に対する得意・苦手意識を調査した結果、最も多いグループは「小学校時代から一貫して苦手群」で、次に多いのが「小学校から一貫して得意群」だった。このことから、最初に覚えた好意や苦手意識が継続しがちであり、入門期の指導が非常に重要という示唆を得た。

「英語ができない」「英語は難しい」という声はよく聞くが、具体的な難しさとして「知っている単語であっても英語母語話者の発音だと聞き取れない」や「音読のためにフリガナを振っている学習者が回答者の半数を占める」、「文字からローマ字読みで誤った発音を自分の中で作ってしまい、それを発音として思い込んでいるため、正しく発音された単語の聞き取りができない」など具体的なつまずきの実態が明らかになった。

英語が得意なグループと苦手なグループで、普段の学習方法や効果的だったと認識している学習方法が異なることが明らかになった。例えば、英単語の発音をカタカナで書くことは、本来の発音を再生できることにつながらず推奨される学習方法ではない。しかし、苦手群にはカタカナの活用でうまく音読できるようになったと感じている学生が一定数いることが分かった。ただし、単にカタカナを書いて、それを読み上げるという方法ではなく、「最初はカタカナを書いて、分かるようになったらカタカナを隠す」や「カタカナを使って発音を理解してから、単語の読み方のルールを理解する」「カタカナをカタカナとして読むのではなく、CDに合わせて読めるようにする」など、カタカナの活用に工夫が見られた。授業において指導者がカタカナの活用を積極的に推奨することはないかもしれないが、カタカナをつけずにいられない学習者に対して、それをどう活用するかについての指導や言及があれば、学習者のつまずきへの支援につながる可能性が示唆された。

小学校の外国語授業で頻繁に用いられている「自由にペアを組んで会話をする」という活動に回答者の約半数が苦手意識を持っていることが明らかになった。このタイプの活動において、ペアの相手を見つけないことができない児童は、おそらくどの学級にも数名いると予想されるが、実際は半数が苦手意識を抱いているという結果だった。自由記述からは「ペアの相手に迷惑をかけてしまうと思い辛かった」「英語ができない自分に付き合わせるのが申し訳ない」「特定の相手としかペアが作れない」など、心理的な負担を吐露する意見が出され、授業で行う活動の選択や活動形態の設定のあり方について検討の余地があることが示唆された。

(4) 教員研修を通して、指導者が児童のつまずきの実態や支援方法を知ることができた。

(1)~(3)の成果及び研修に参加した22名の教員の「指導上の困難や悩み」を元に、研修を実施した。研修は大きく分けて音と文字の関係、読み、語彙の定着について、記憶、ディスレクシア、要支援学習者への対応について、一斉授業での支援、学習者の意欲や情意面への支援についての3テーマで構成され、それぞれに理論の学習と、実際の教材を用いての指導体験を行った。事後に学びの成果をアンケート調査した結果、「自分の理解する英語と実際の英語ネイティブ発音にギャップがあり、そこが壁になる児童も多くいることを実感した。学習の場面でも、日本語の発音にないものには脳が処理できない様子があるが、それを解説してあげることも日本語話者である教師の役割であると感じた。」「それぞれのテーマがとても興味深かったです。児童の実態にあわせた支援をしていけば、児童が主体的に意欲的に学習に向かうことができるので、日々の授業の中で児童の姿に寄り添い、どこに困り感があるのか、感じ取れるようにしていきたいと思いました。今回教えていただいたことを実際の授業の中でどのように取り入れていくか、セミナーの最中から考えていました。それほど、早く実践してみたい内容がたくさんありました。」など指導者がそれまで想像していなかったつまずきを学習者が持っていることを新たに認識し、それにどのように対応していけばよいかの理解を深めた様子が伺えた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 E Tomida, W Oishi, A Nakayama	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 Student-led Project with Human Ecology Model and Transformative Activist Stance: A Case Study on After School Program on University Campus	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Human Development and Family Studies (AHEAD)	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天野 圭吾, 大谷 みどり, 猫田 英伸	4. 巻 21
2. 論文標題 小中連携を通じた主体的に英語を学ぶ子どもの育成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 島根大学教育臨床総合研究	6. 最初と最後の頁 139-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田城 涼介, 大谷 みどり, 猫田 英伸	4. 巻 6
2. 論文標題 高校生の英語スピーキングに対する学習意欲を踏まえた指導実践 効果的なりテリング活動の開発	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川合紀宗, 松宮奈賀子, 梅健太	4. 巻 21
2. 論文標題 聴覚障害特別支援学校小学部における外国語教育の現状と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山晃, 梅本祥史	4. 巻 21
2. 論文標題 Hybrid Flexible 型の授業デザインを用いた 英語の授業実践報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷みどり, 中園博美	4. 巻 17
2. 論文標題 留学生と日本人学生の合同授業の取組－実践報告と今後の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳥根大学外国語教育センタージャーナル	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂根 大雅, 大谷 みどり	4. 巻 20
2. 論文標題 地域の実態を活かした小学校外国語教育の実践－「World Day in Kakinoki」の取組を中心に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳥根大学教育臨床総合研究.	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 篠村恭子, 大谷みどり	4. 巻 22
2. 論文標題 小学校国語科学習指導要領から見る外国語活動・外国語科の授業実践への示唆	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 70-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嵐谷恭子, 川谷のり子, 鎌田真由美, 三成拓垂, 大谷みどり, 猫田英伸	4. 巻 52
2. 論文標題 中学校英語科における学びの多様性に応じた個別最適な授業づくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nurul H Rofiah, Norimune Kawai, Elli Nur Hayati	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Key elements of disaster mitigation education in inclusive school setting in the Indonesian context	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAMBA: Journal of Disaster Risk Studies	6. 最初と最後の頁 1159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4102/jamba.v13i1.1159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ediyanto Ediyanto, Norimune Kawai, Masashi Hayashida, Nagako Matsumiya, Md Abu Bakor Siddik, Areej Talea Almutairi	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 Indonesian Teachers' Attitudes Toward Inclusive Education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Discourse and Communication for Sustainable Education	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2478/dcse-2021-0014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iva Nandya Atika, Norimune Kawai, Atsuhiko Funabashi	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 Attitudes of Secondary School Science Teachers toward Teaching Diverse Students	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 INKLUSI	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14421/ijds.080202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松宮奈賀子, 大谷みどり, 中山晃, 川合紀宗	4. 巻 21
2. 論文標題 小学校外国語科における6年生児童のつまずきの実態 学級担任及び専科教員を対象とした調査結果の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松宮奈賀子	4. 巻 1242
2. 論文標題 「言語の本質」への理解を基盤とした外国語教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷みどり	4. 巻 1242
2. 論文標題 世界の人たちとつながる外国語教育を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Areej Almutairi, Norimune Kawai, Abeer Alharbi	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 Faculty members' and administrators' attitudes on integrating students with intellectual disability into postsecondary education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Exceptionality	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09362835.2020.1727330	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Restuti Maulida, Iva Nandya Atika, Norimune Kawai	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 The Pre-Service Teachers' Attitudes towards Inclusive Education: An Empirical Study in Yogyakarta City, Indonesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Discourse and Communication for Sustainable Education	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2478/dcse-2020-0007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sokunrith Pov, Norimune Kawai, Nagako Matsumiya	4. 巻 20
2. 論文標題 Determinants of student achievement at lower secondary schools in rural Cambodia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Research for Policy and Practice	6. 最初と最後の頁 207-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10671-020-09276-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川谷のり子, 嵐谷 恭子, 大谷みどり, 宮崎紀雅	4. 巻 4
2. 論文標題 「shimafu シート」を活用した授業実践事例 UDL(Universal Design for Learning)の考えを取り入れた授業づくり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 猫田 英伸, 大谷みどり, 鎌田真由美, 三成 拓亜, 嵐谷 恭子, 川谷のり子, 甲元和貴, 縄手雅彦	4. 巻 51
2. 論文標題 英語初学者の読み書きの困難さの原因を探る iPad 版アセスメントの開発: 紙版アセスメントとの比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 川合紀宗, 大谷みどり, 中山晃, 村上加代子, 松宮奈賀子
2. 発表標題 学習に困難のある児童生徒の英語学習におけるつまずきと指導支援
3. 学会等名 日本LD学会第31回大会（京都）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷みどり
2. 発表標題 英語授業における支援の在り方～基本概念を確認しながら支援の具体を考える
3. 学会等名 英語ユニバーサルデザイン研究学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷みどり, 川谷のり子, 嵐谷恭子, 三成拓亜, 坂田直子, 龍河英美, 永見修一
2. 発表標題 通常学級の英語授業における支援の在り方～小中高の子どもたちに応じた工夫と対応
3. 学会等名 日本LD学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上加代子
2. 発表標題 「つまずく」学習者に関わる視点—なぜへの答えを求めて
3. 学会等名 ことばの科学会第14回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上加代子, 小幡理恵, 加藤幸子
2. 発表標題 英語の読み書きが困難な中学生2事例への指導実践報告
3. 学会等名 一般社団法人日本LD学会第31回大会(京都)ポスター発表
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上加代子
2. 発表標題 英単語で躓く児童生徒への指導のヒント
3. 学会等名 第四回S.E.N.S年次大会(北海道)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上加代子
2. 発表標題 これでいいのか? -日本の英語教育と特別支援教育-
3. 学会等名 英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第二回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松宮奈賀子, 川合紀宗
2. 発表標題 英語学習における児童生徒のつまずきを考える
3. 学会等名 北海道教育大学小学校英語教育の指導力向上プロジェクト 小学校英語 小・中連携フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nagako Matsumiya, Norimune Kawai, Midori Otani, Akira Nakayama, Kayoko Murakami
2. 発表標題 Homeroom Teachers' and English Language Teachers' Perspectives about Learners' Difficulties in Learning English in Japan
3. 学会等名 ASHA (American Speech-Language-Hearing Association) Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Norimune Kawai, Nagako Matsumiya
2. 発表標題 Errors in English Language Learning by Japanese Elementary School Students with Learning Difficulties
3. 学会等名 ISEC (Inclusive and Supportive Education Conference) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松宮奈賀子
2. 発表標題 小中連携における新たな課題
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 第2回研究大会 第50回中国・四国支部研究大会 シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山晃, 大谷みどり, 村上加代子, 川合紀宗, 松宮奈賀子
2. 発表標題 英語学習における児童のつまずきに対する教師の認知 専科教員及び学級担任を対象とした調査結果の分析
3. 学会等名 小学校英語教育学会 関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西原美幸, 松宮奈賀子
2. 発表標題 小学校高学年児童の英語スピーキングに関する実態調査
3. 学会等名 小学校英語教育学会 関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松宮奈賀子
2. 発表標題 教育実践・研究における「成果」を改めて考える
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会第6回大会 シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷みどり
2. 発表標題 地方における国際交流活動を通しての、小学生の異文化・自文化への気づき
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷みどり, 田縁真弓, 加賀田哲也
2. 発表標題 読み書きでつまずく児童への手立て
3. 学会等名 児童英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上加代子
2. 発表標題 speedから/p/を抜くと「スード」になるのはなぜかー 日本語音節感覚が英語の音素操作に与える影響に関する考察
3. 学会等名 英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第3回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下桂世子, 村上加代子, 川合紀宗, 松宮奈賀子
2. 発表標題 外国語科に学びにくさのある児童生徒の支援
3. 学会等名 広島大学教育ヴィジョン研究センター 第95回定例オンラインセミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上加代子, 醍醐路子, 黒木愛
2. 発表標題 英語にカナをふる指導についてー小学校、中学校、発達支援の立場から
3. 学会等名 言語エキスポ2022年(シンポジウム)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川合紀宗, 松宮奈賀子, 大谷みどり
2. 発表標題 小学校外国語科における6年生児童のつまずきの実態 専科教員及び学級担任を対象とした調査結果の分析
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会 中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷みどり
2. 発表標題 通常学級の英語学習における支援
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上加代子, 飯島睦美, 小幡理恵, 大野淳子, 品川裕香
2. 発表標題 中学生への効果的な英単語読み書き指導の工夫
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河合裕美, 松尾 理恵, 大谷みどり, 飯島睦美
2. 発表標題 支援を必要とする児童を含む通常学級の外国語学習のための環境づくり～特別支援学級との英語指導連携体制構築の一環として
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川美加子, 大谷みどり
2. 発表標題 外国語科の授業から見える児童のつまずきと支援について
3. 学会等名 児童英語教育学会 第49回中国四国支部研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷みどり
2. 発表標題 学びのユニバーサルデザイン (UDL) を活用した通常学級の英語授業における支援と課題
3. 学会等名 英語教育ユニバーサルデザイン研究学会 第2回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上加代子
2. 発表標題 読み書き困難児童生徒の英語の音韻認識調査報告 (中間報告)
3. 学会等名 ことばの科学会 2020年7月度研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川合紀宗, 中山晃, 大谷みどり, 松宮奈賀子
2. 発表標題 英語学習における児童のつまずき指導に対する教師の自信の有無 つまずきチェック項目の尺度化とその検討を通して
3. 学会等名 日本LD学会 2020年度第4回研究集会 (富山)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 川合紀宗	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 736
3. 書名 図解 言語聴覚療法技術ガイド 第2版	

1. 著者名 川合紀宗, 松宮奈賀子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 160
3. 書名 教育の未来デザイン: 「コロナ」からこれからの教育を考える	

1. 著者名 村上加代子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 個に応じた英語指導をめざして: ユニバーサルデザインの授業づくり	

1. 著者名 川合紀宗	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 243
3. 書名 米田 宏樹・川合紀宗編 『新・教職課程演習 第6巻 特別支援教育』	

1. 著者名 川合紀宗, 松宮奈賀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 160
3. 書名 広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI) 著 『「コロナ」から学校教育をリデザインする』	

1. 著者名 川合紀宗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 170
3. 書名 草原和博, 吉田成章編著 『ポスト・コロナの学校教育 - 教育者の応答と未来デザイン - 』	

1. 著者名 松宮奈賀子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 170
3. 書名 草原和博, 吉田成章編著 『ポスト・コロナの学校教育 - 教育者の応答と未来デザイン - 』	

1. 著者名 松宮奈賀子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 170
3. 書名 泉恵美子, 小泉仁, 築道和明, 大城賢, 酒井英樹編 『すぐれた小学校英語授業 先行実践と理論から指導法を考える』	

1. 著者名 大谷みどり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 170
3. 書名 泉恵美子, 小泉仁, 築道和明, 大城賢, 酒井英樹編 『すぐれた小学校英語授業 先行実践と理論から指導法を考える』	

1. 著者名 大谷みどり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 152
3. 書名 大谷みどり編著 『特別支援教育の視点で、どの子ども学びやすい小学校英語の授業づくり』	

1. 著者名 大谷みどり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 184
3. 書名 小学校英語教育学会20周年記念誌編集委員会編 『小学校英語教育ハンドブックー理論と実践 』	

1. 著者名 村上加代子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 144
3. 書名 ビジョントレーニングでアルファベットはじめてドリル	

1. 著者名 村上加代子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 144
3. 書名 多感覚を生かして学ぶ小学校英語のユニバーサルデザイン : 学びはじめにつまずかせない!!	

1. 著者名 中山晃	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 360
3. 書名 小山義徳, 道田泰司編 『「問う力」を育てる理論と実践 問い・質問・発問の活用の仕方を探る』	

1. 著者名 松宮奈賀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 209
3. 書名 名畑目真吾, 松宮奈賀子編著 『新・教職課程演習第12巻 初等外国語教育』	

1. 著者名 大谷みどり・川合紀宗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 209
3. 書名 名畑目真吾, 松宮奈賀子編著 『新・教職課程演習第12巻 初等外国語教育』	

1. 著者名 川合紀宗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 209
3. 書名 名畑目真吾, 松宮奈賀子編著 『新・教職課程演習第12巻 初等外国語教育』	

1. 著者名 松宮奈賀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 215
3. 書名 卯城祐司・榎葉みつ子編著『新・教職課程演習第18巻 中等英語科教育』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川合 紀宗 (Kawai Norimune) (20467757)	広島大学・ダイバーシティ&インクルージョン推進機構・教授 (15401)	
研究分担者	中山 晃 (Nakayama Akira) (70364495)	愛媛大学・教育・学生支援機構・教授 (16301)	
研究分担者	村上 加代子 (Murakami Kayoko) (00552944)	武庫川女子大学・教育学部・准教授 (34517)	
研究分担者	大谷 みどり (Otani Midori) (80533299)	島根大学・学術研究院教育学系・特任教授 (15201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------